

地域の子どもはみんなの子ども。地域主催の行事も盛ん



文



芥屋海水浴場や弓状に砂浜が広がる幣の浜(にぎのはま)など、風光明媚(めいび)な観光地の近くに位置する、糸島市立引津小学校。全校児童は約240人と少ないですが、保護者と地域の連携が強く、地域行事が活発です。中でも、校庭に建つ土俵で行う「引津校区学童相撲大会」は、約40年前にPTA主導で始まった独自のもの。主催は、地域住民らでつくる引津青少年育成校区民会議で、練習期間中は、保護者や地域の大人が毎日見守ります。子ども時代に出場していた保護者も多い伝統行事で、応援も白熱します。

引津小学校が最も力を入れる取り組みは、コミュニケーション力の育成。「自分の言葉でつながる子」を目標に掲げています。特に、あいさつでつながる関係づくりは、教職員や保護者、地域

住民にも習慣化を呼び掛け、「あいさつ運動」期間中には、地域放送で全世帯に協力依頼する徹底ぶり。地域の人も「登下校時にあいさつしてくれる子どもが多い」と歓迎しており、「地域の子どもはみんなの子ども」という地域力の継承を後押ししているようです。

一方、子どもたちの力で地域を元気にしたいと10年以上続けているのが、4年生のゴキブリ団子作り。民生委員や福祉委員らと一緒に、玉ねぎとホウ酸を使ったゴキブリ忌避剤を5000個以上も手作りして、校区内に100人以上いる独り暮らしの高齢者宅を訪ねて手渡します。高齢者も子どもたちも、毎年楽しみにしている恒例行事です。



「引津校区学童相撲大会」は、平成30年度で37回目の伝統行事



地域住民と行う4年生の「ゴキブリ団子作り」も、毎年喜ばれる恒例行事